



2010年3月期 決算説明会

SMK株式会社
2010年4月30日

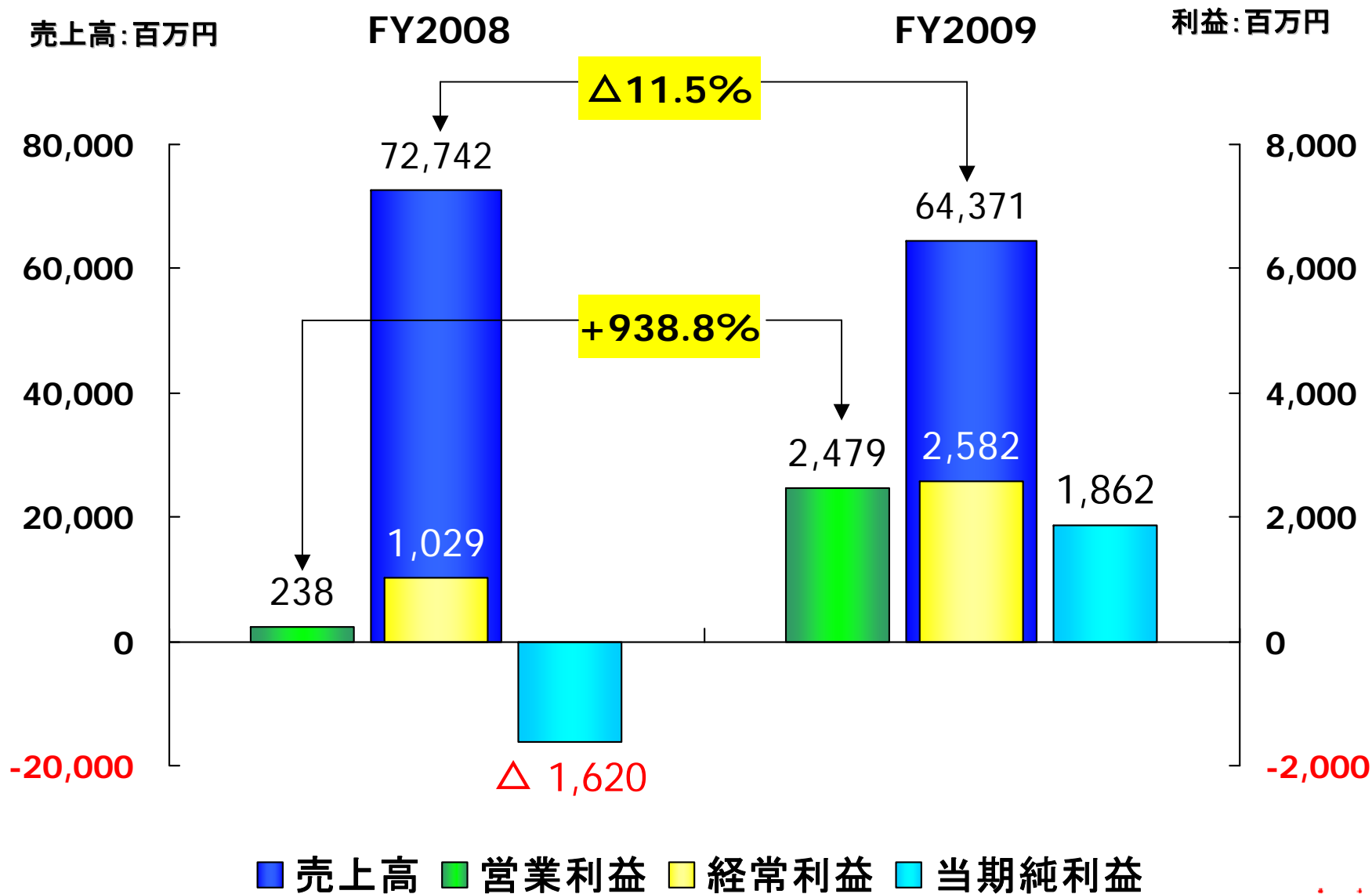


FY2009通期決算の概況

取締役 常務執行役員 山田 一



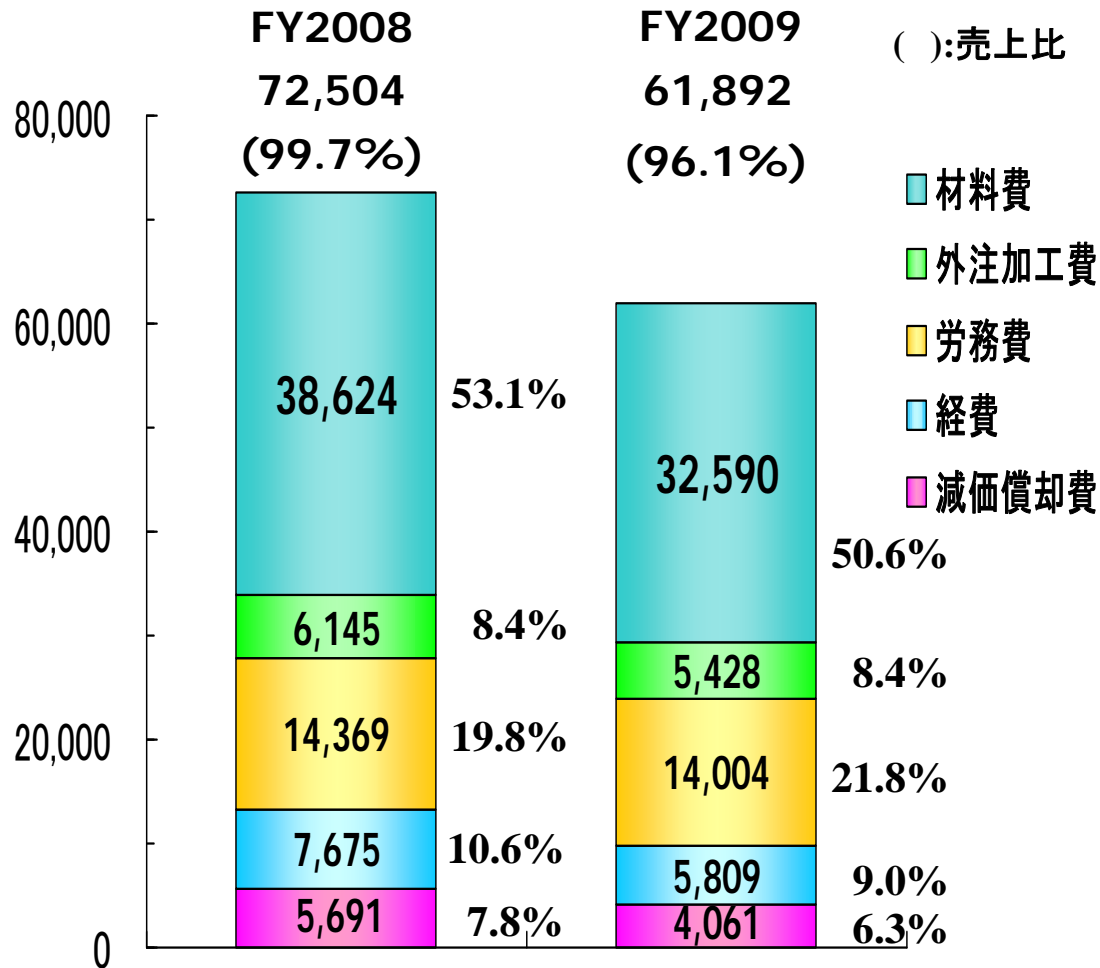
<連結>通期業績





<連結> 営業費用

(単位:百万円)



():売上比

〔(材料費+外注加工費)2.5%改善〕
 61.5%→59.0% Δ1,603百万円

〔経費 1,866百万円減少〕
 日本: Δ1,159百万円
 海外事業所他: Δ707百万円

〔減価償却費 1,630百万円減少〕
 日本: Δ1,556百万円
 (設備投資の減少)
 海外事業所他: Δ74百万円

営業利益 238
 (0.3%)

2,479
 (3.9%)

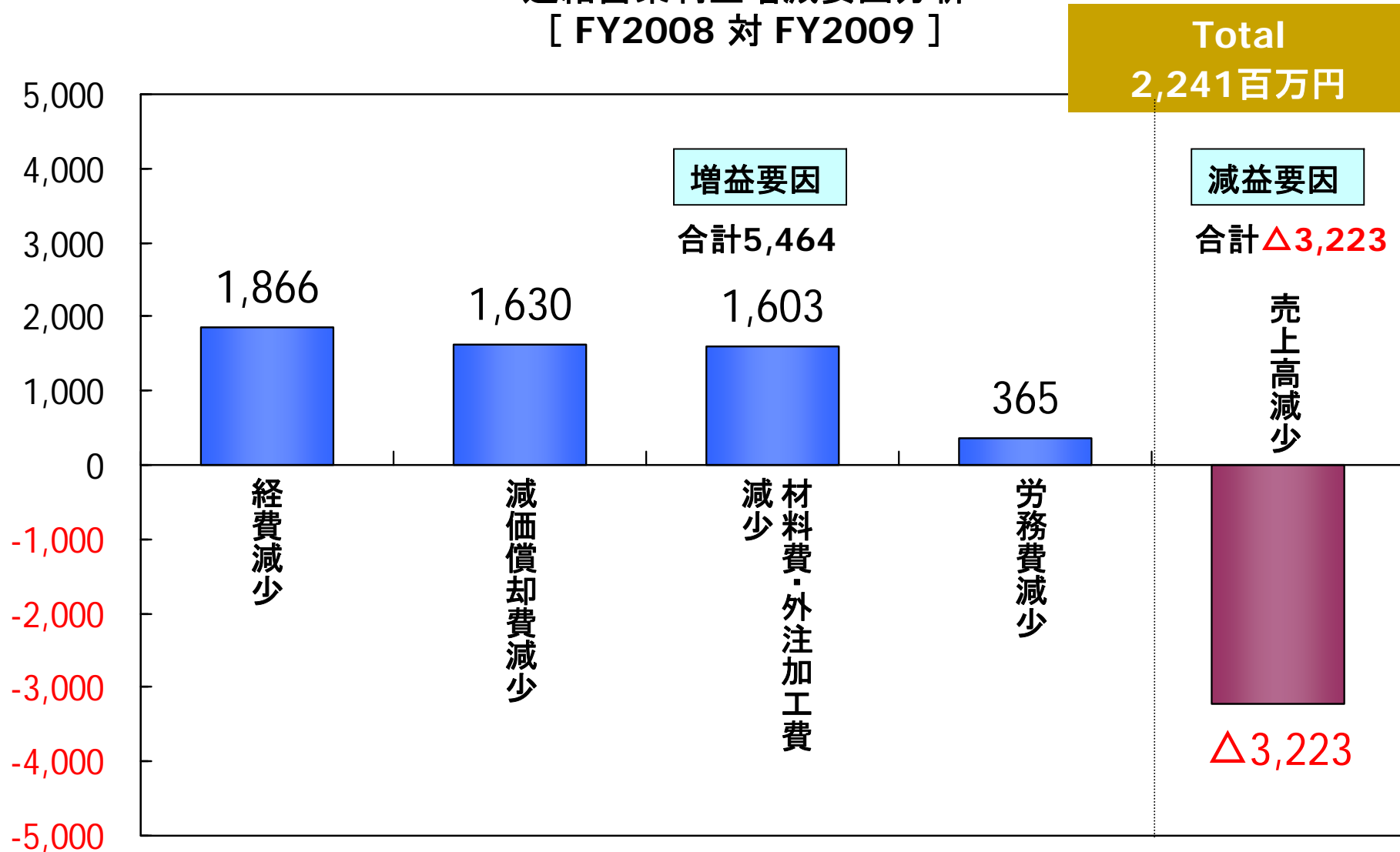


<連結> 営業費用分析

5/31

連結営業利益増減要因分析
[FY2008 対 FY2009]

(単位:百万円)

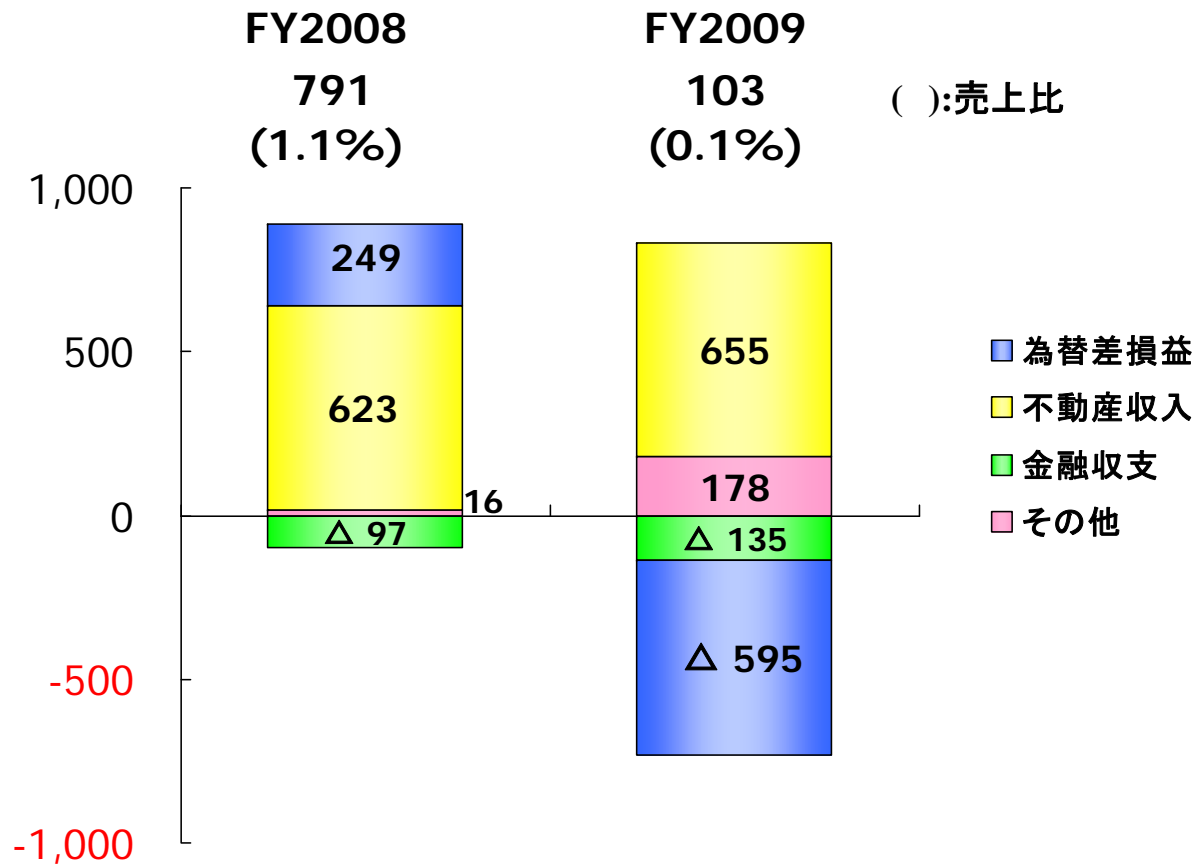




<連結> 営業外損益

6/31

(単位:百万円)



[為替差損 844百万円増加]
為替差益⇒為替差損

1. 前期
08/3 ¥100.19/\$
09/3 ¥ 98.23/\$ 1.96の円高
・為替予約による実現益+650百万円

2. 当期
09/3 ¥ 98.23/\$
10/3 ¥ 93.04/\$ 5.19の円高

経常利益 1,029
(1.4%)

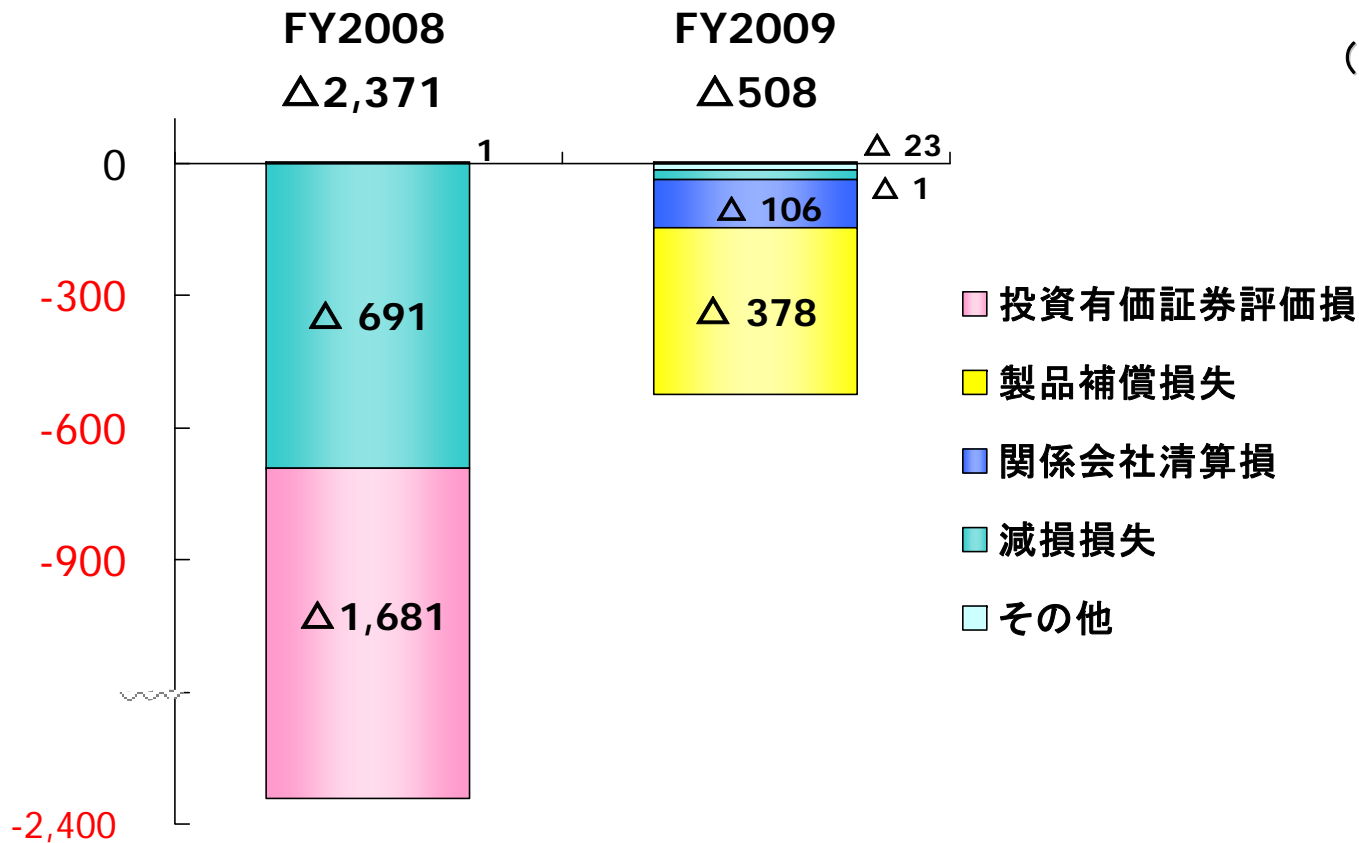
2,582
(4.0%)



<連結>特別損益

7/31

(単位:百万円)



税引前利益	△1,342	2,074
税金等(含税効果処理)	△278	△212
当期純利益	△1,620	1,862
	(△2.2%)	(2.9%)



＜連結＞業績推移(四半期別)

8/31

1. FY2009実績

(単位:百万円)

	上 期			下 期			通 期
	第1QTR (09/4~6)	第2QTR (09/7~9)	合 計 (09/4~9)	第3QTR (09/10~12)	第4QTR (10/1~3)	合 計 (09/10~10/3)	合 計 (09/4~10/3)
① 売上高	15,684	16,596	32,280	16,164	15,927	32,091	64,371
対前年比(%)	73.4	71.4	72.4	104.7	125.4	114.0	88.5
② 営業利益	706	937	1,643	470	366	836	2,479
対前年比(%)	66.2	100.9	82.3	—	—	—	1,038.8
③ 経常利益	706	576	1,282	764	536	1,300	2,582
対前年比(%)	33.0	56.3	40.5	—	—	—	250.8
④ 当期純利益	374	566	940	309	613	922	1,862
対前年比(%)	25.1	260.8	55.0	—	—	—	—

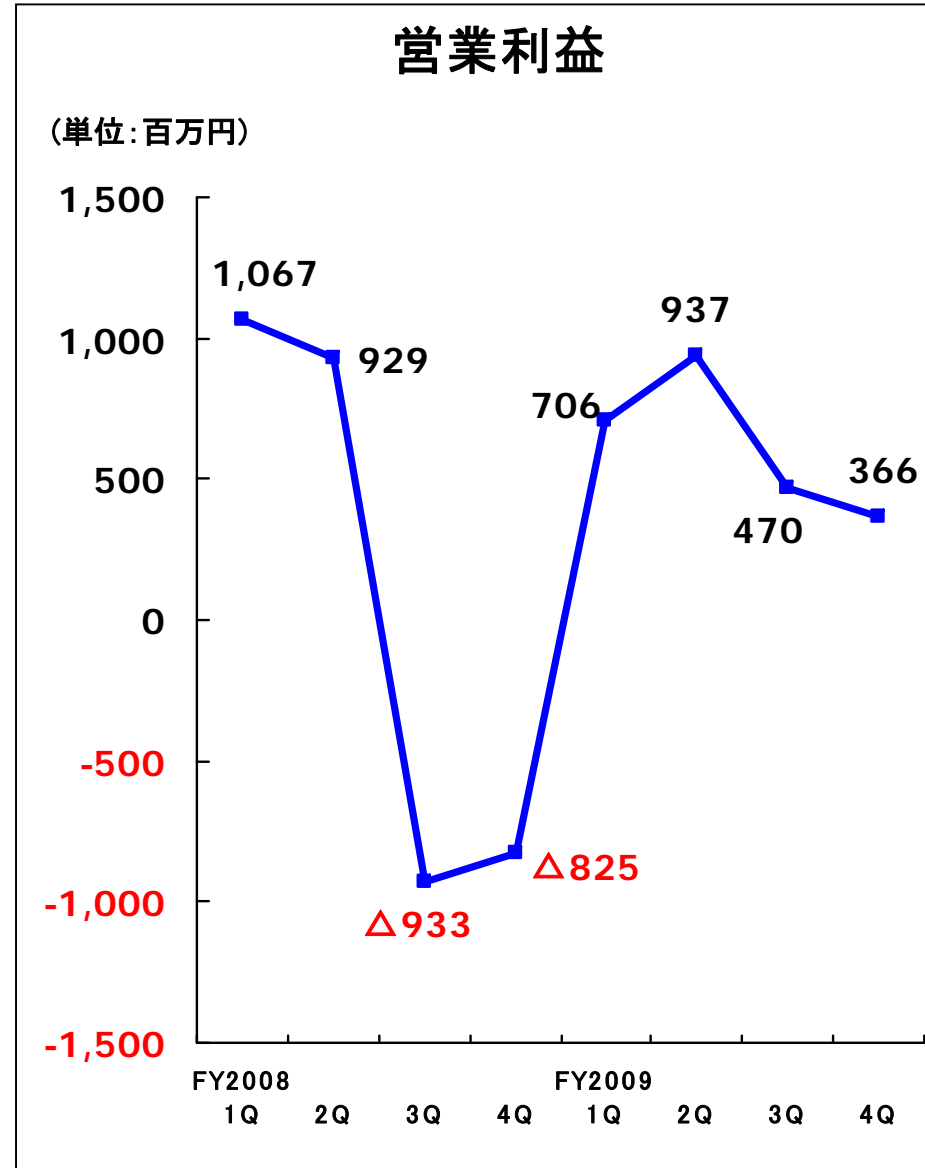
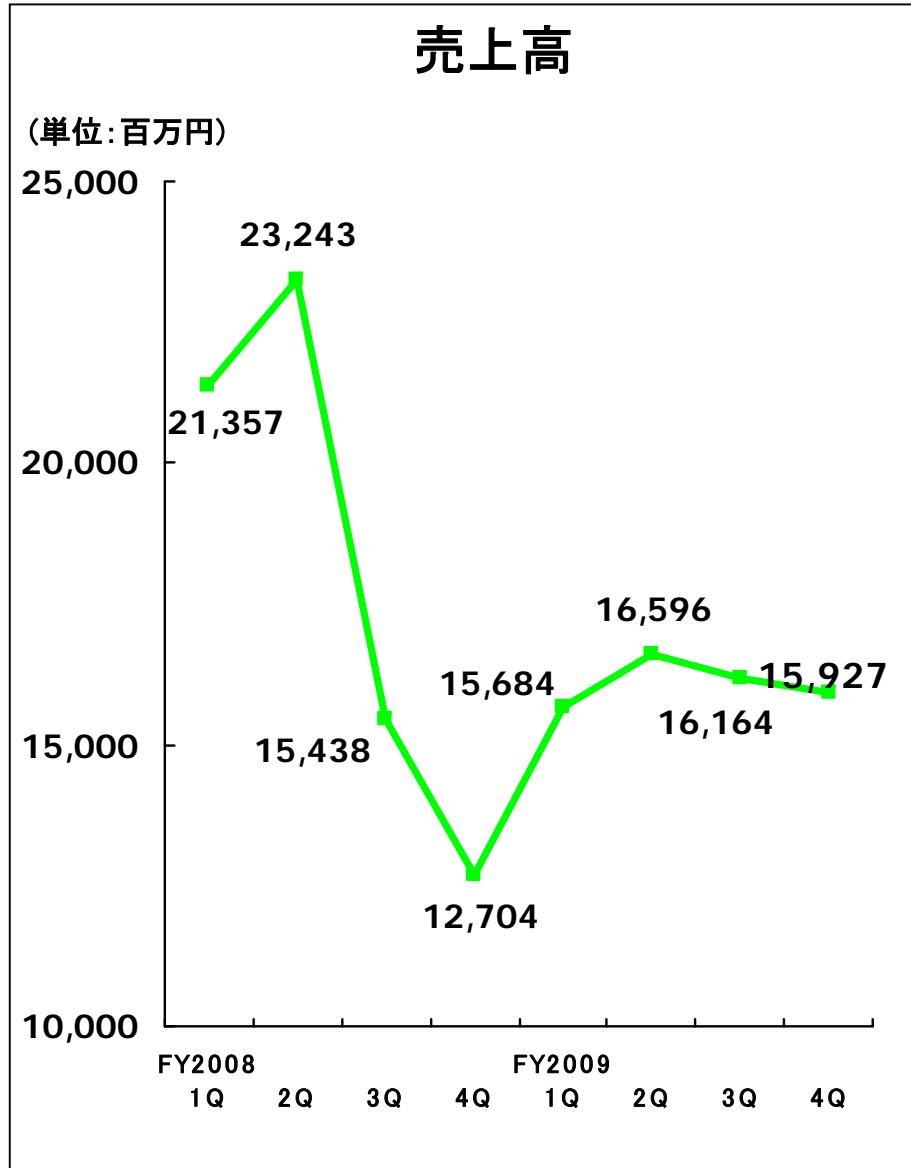
2. FY2008実績

(単位:百万円)

	上 期			下 期			通 期
	第1QTR (08/4~6)	第2QTR (08/7~9)	合 計 (08/4~9)	第3QTR (08/10~12)	第4QTR (09/1~3)	合 計 (08/10~09/3)	合 計 (08/4~09/3)
① 売上高	21,357	23,243	44,600	15,438	12,704	28,142	72,742
対前年比(%)	104.6	98.4	101.3	67.3	61.4	64.5	83.0
② 営業利益	1,067	929	1,996	△ 933	△ 825	△ 1,758	238
対前年比(%)	62.1	44.5	52.4	—	—	—	4.2
③ 経常利益	2,141	1,024	3,165	△ 1,464	△ 672	△ 2,136	1,029
対前年比(%)	90.5	66.6	81.1	—	—	—	23.8
④ 当期純利益	1,493	217	1,710	△ 2,037	△ 1,293	△ 3,330	△ 1,620
対前年比(%)	93.4	29.4	73.2	—	—	—	—



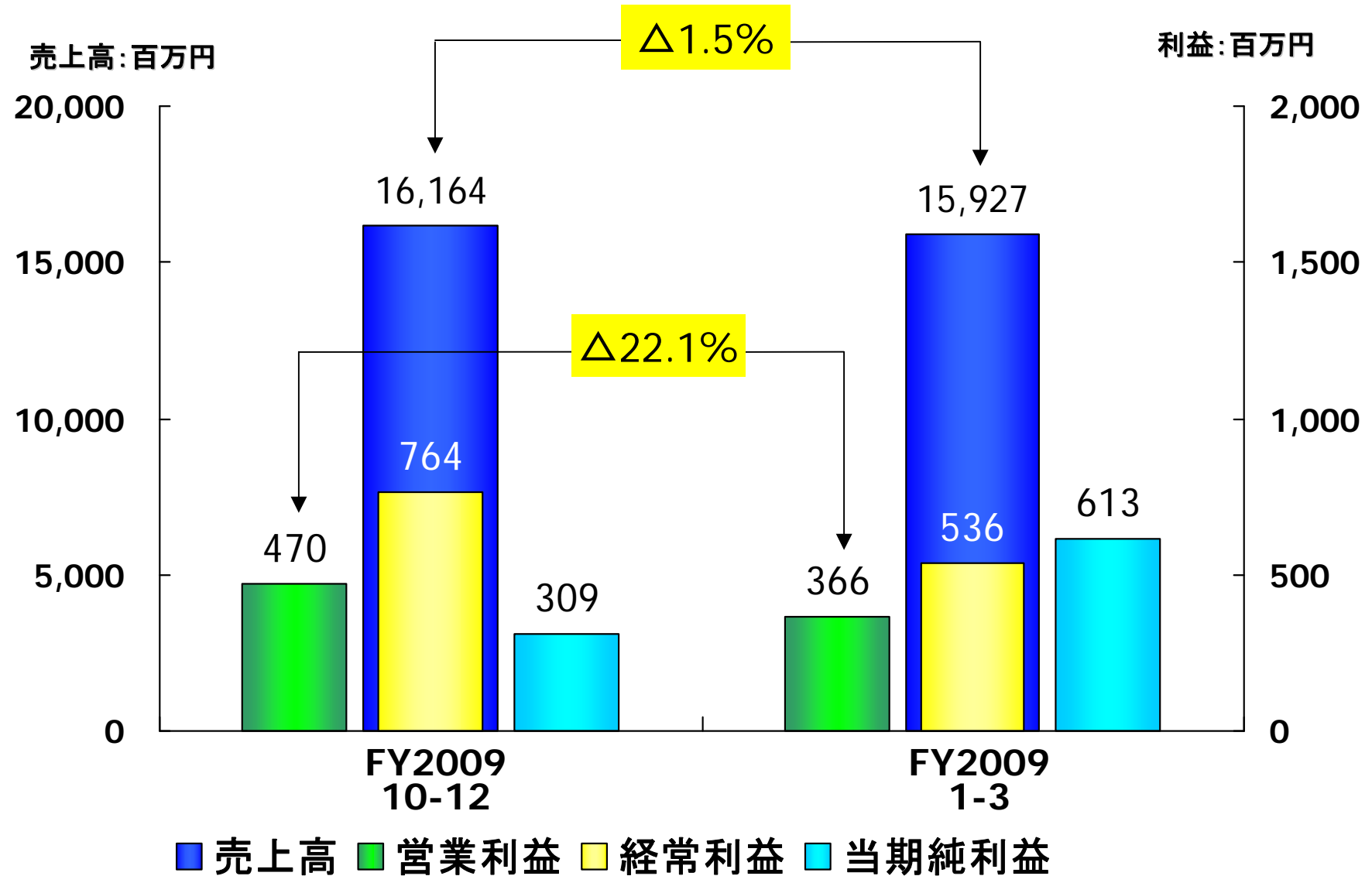
<連結>業績推移(四半期別)<売上高・営業利益>^{9/31}





<連結>88期4Q業績(対88期3Q)

10/31



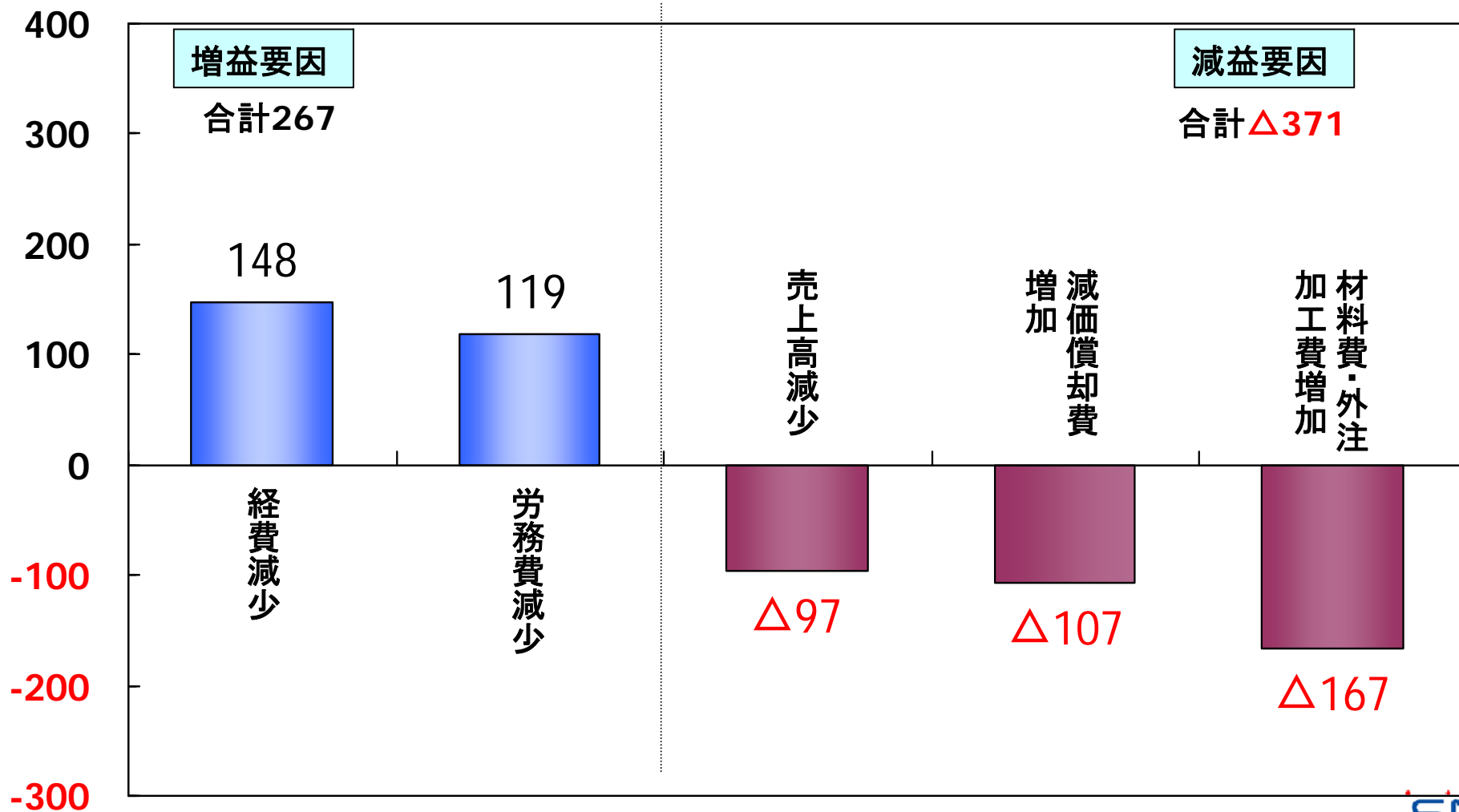


<連結>88期4Q営業費用分析(対88期3Q)^{11/31}

(単位:百万円)

連結営業利益増減要因分析
[FY2009 10-12 対 FY2009 1-3]

Total
△104百万円





<連結>財政状態

12/31

(単位:百万円)

	2009/3 (A)	2010/3 (B)	増減 (B-A)
資産	58,168	56,113	△2,055
現預金	9,081	8,758	△323
受取手形及び売掛金	14,864	16,337	1,473
棚卸資産	6,234	5,240	△994
固定資産	23,865	22,133	△1,732
負債	29,088	24,986	△4,102
買掛金及び未払金	9,189	10,841	1,652
有利子負債	16,893	10,965	△5,928
純資産	29,079	31,127	2,048
資本金	7,996	7,996	—
自己資本比率	49.9%	55.3%	5.4%



<連結>キャッシュ・フローの状況

13/31

(単位:百万円)

	FY2008	FY2009
営業キャッシュフロー	9,249	9,003
運転資金	5,723	423
税引前利益	△1,341	2,074
減価償却費	5,610	4,020
その他	△743	2,486
投資キャッシュフロー	△4,020	△2,480
フリーキャッシュフロー	5,229	6,523
財務キャッシュフロー	△3,419	△6,741
有利子負債の増減額	△1,785	△6,434
自己株式の増減額	△654	△56
配当金の支払金額	△980	△251
現金等期首残高	7,073	9,072
現金等期末残高	9,072	8,749

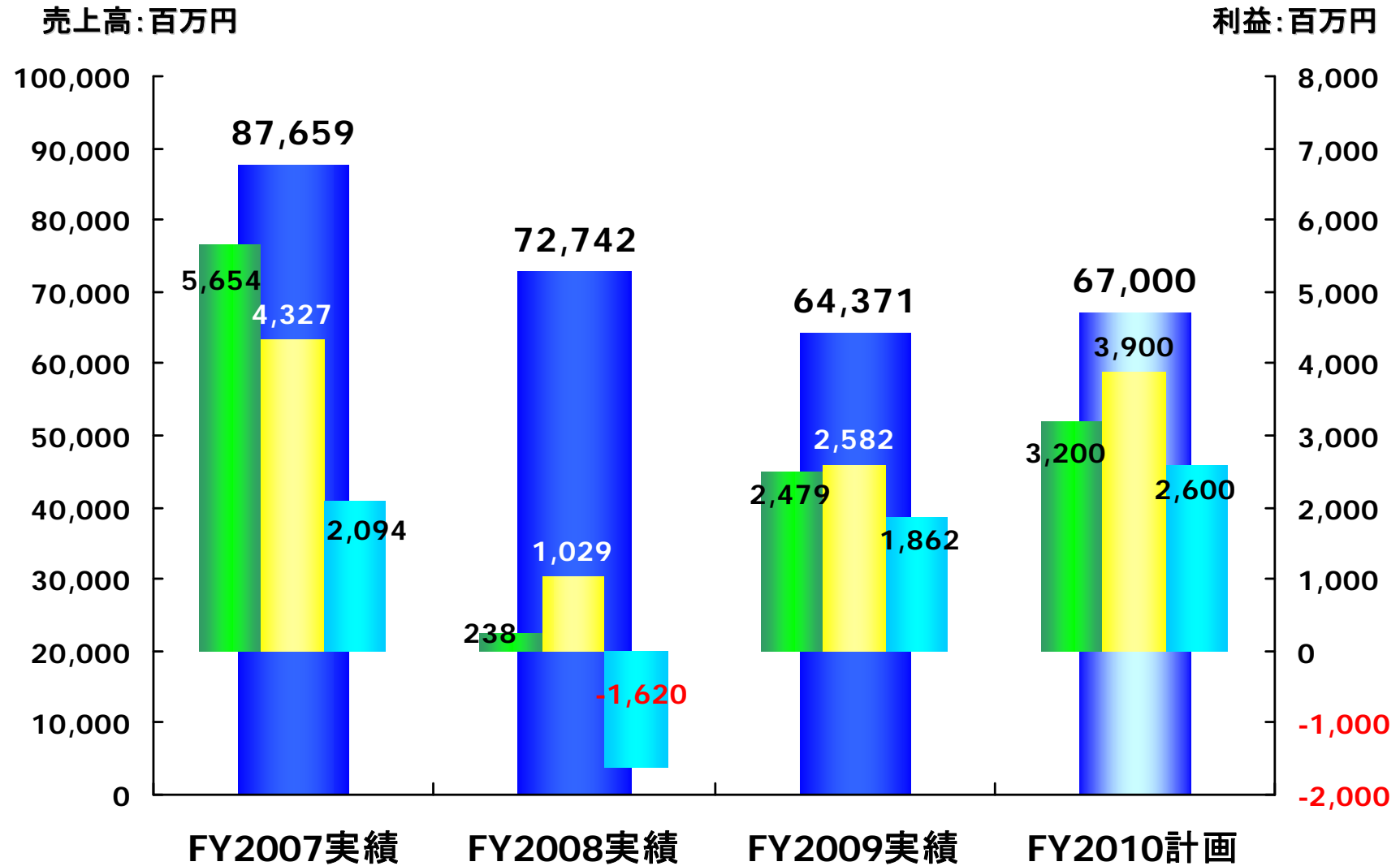


FY2009通期実績とFY2010見通し

代表取締役 社長 中村 哲也



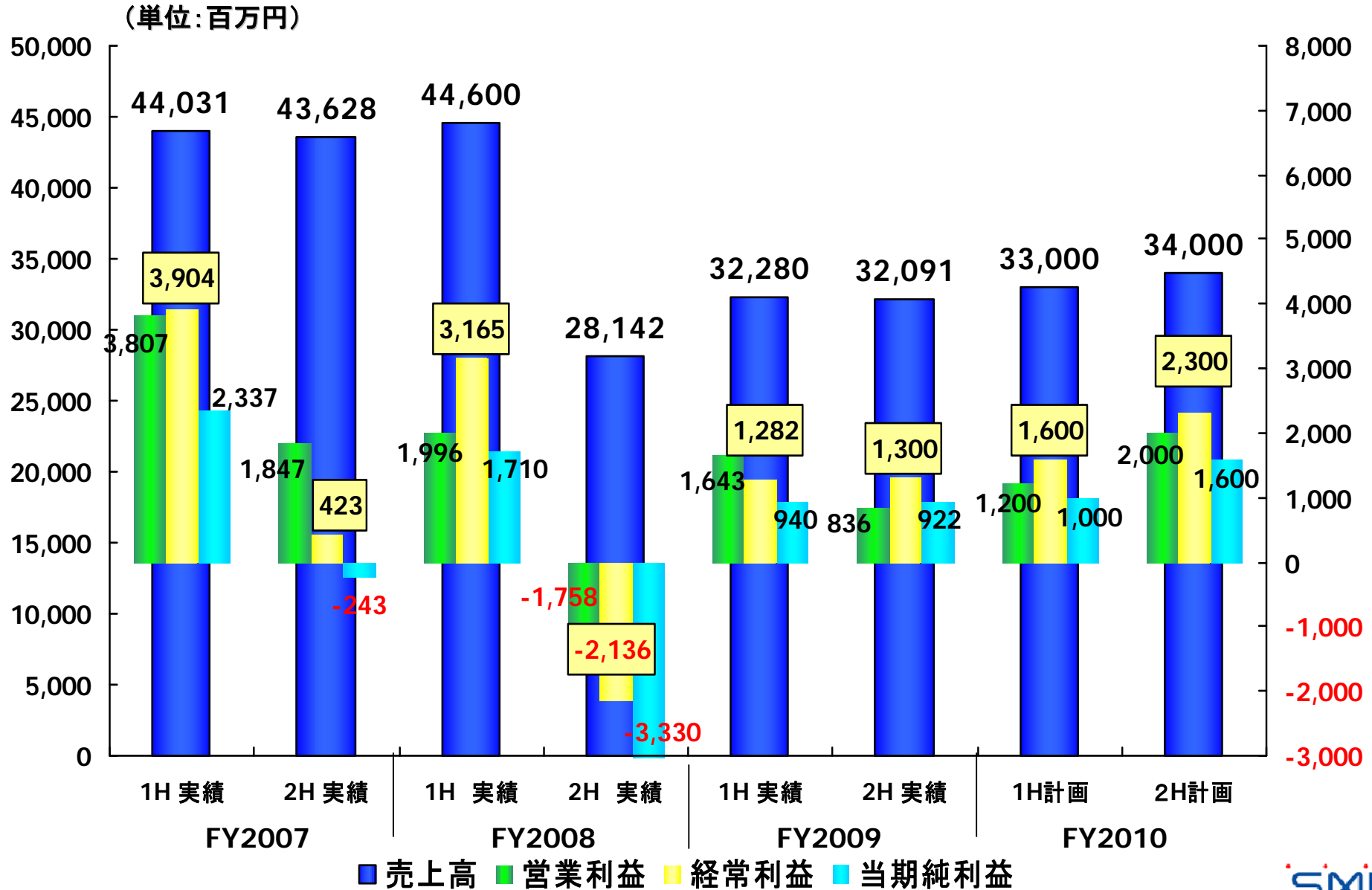
通期 売上高、利益推移(FY2007~FY2010)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 当期純利益



半期別 売上高、利益推移(FY2007~FY2010)

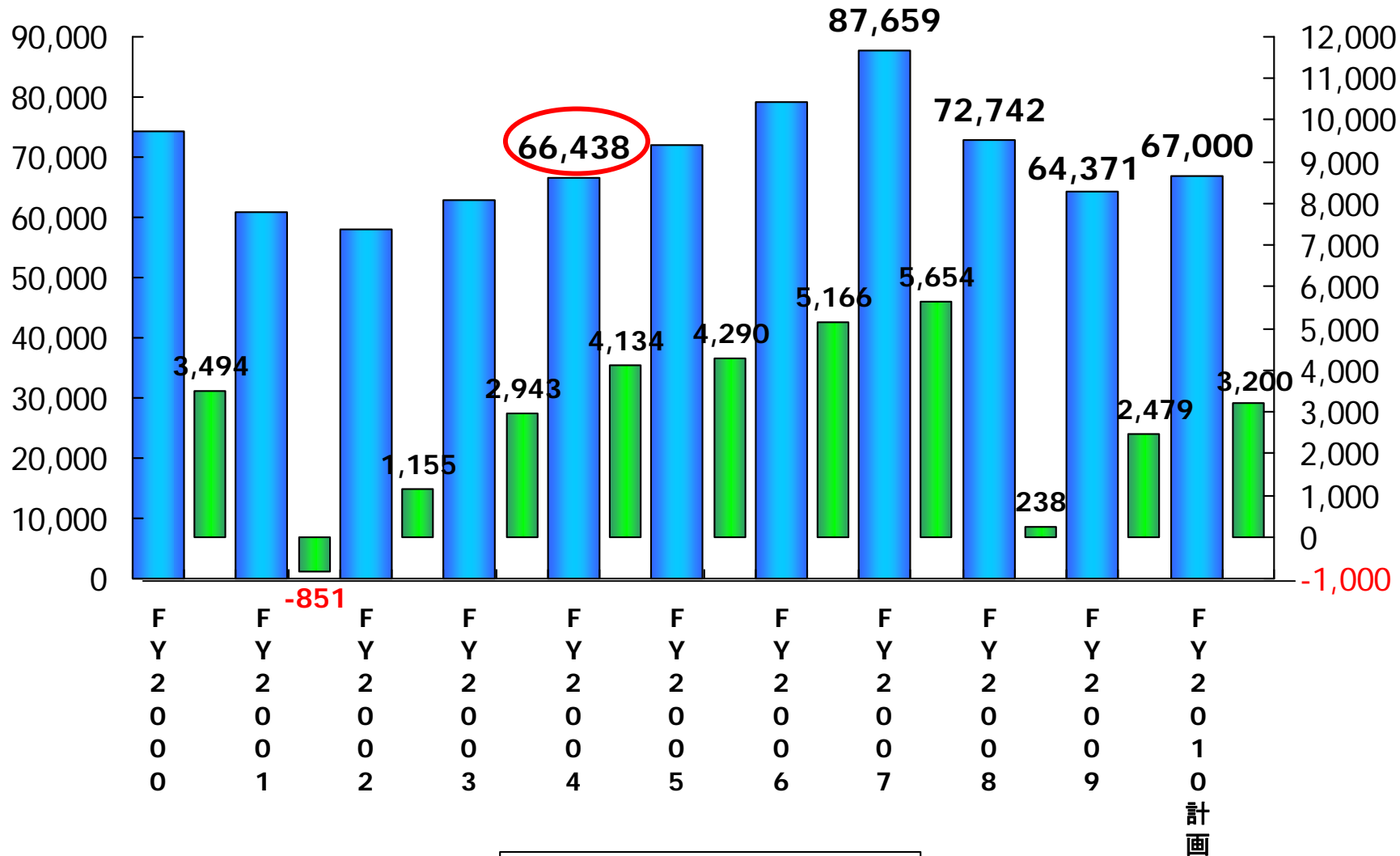




期別 売上高 & 営業利益推移 (FY2000~FY2010) 17/31

売上高:百万円

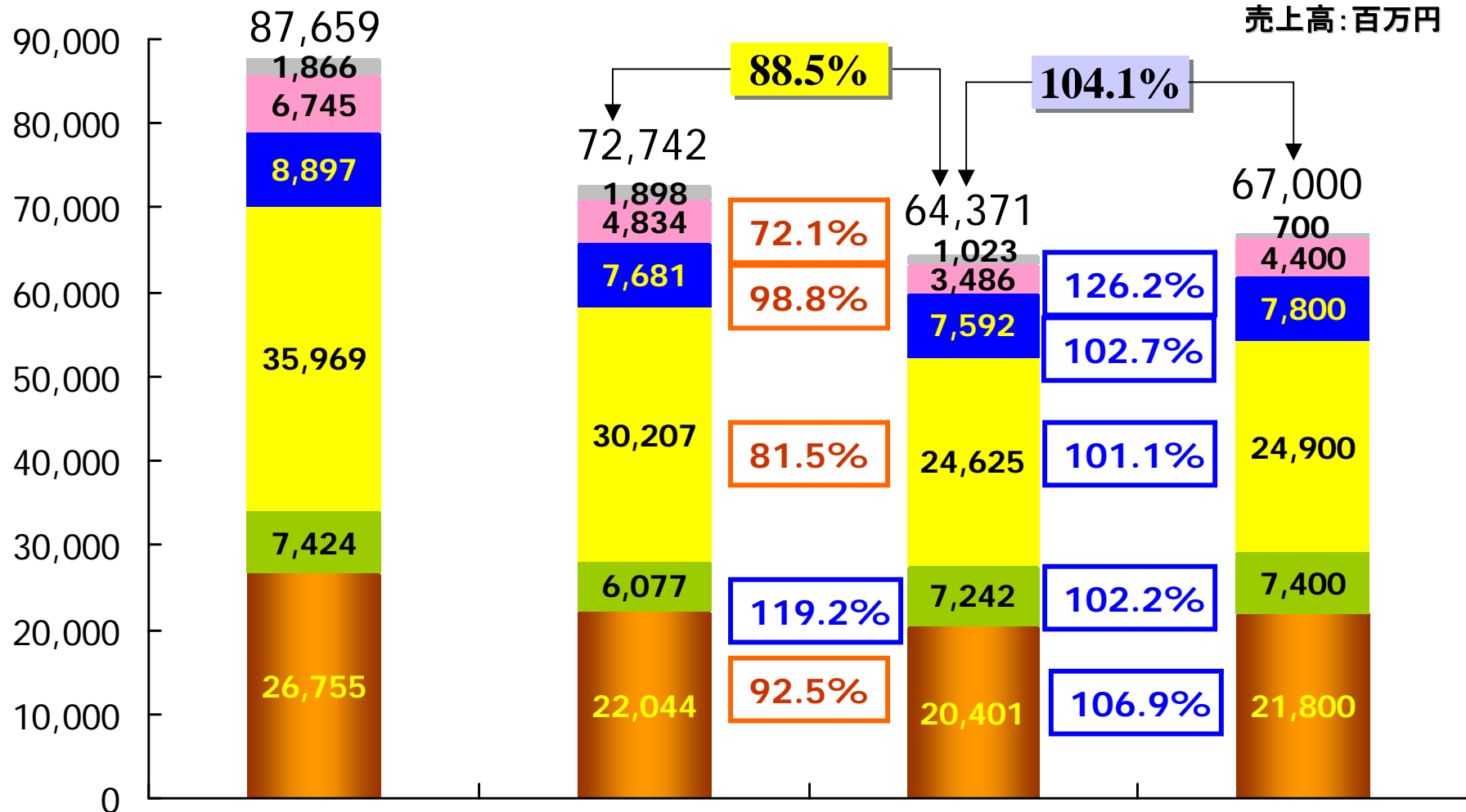
営業利益:百万円



■ 売上高 ■ 営業利益



<連結>市場別売上高推移



FY2007 FY2008 FY2009 FY2010計画

■ 映像・音響 ■ 電装 ■ 通信 ■ 情報事務機 ■ 電子玩具・家電 ■ その他

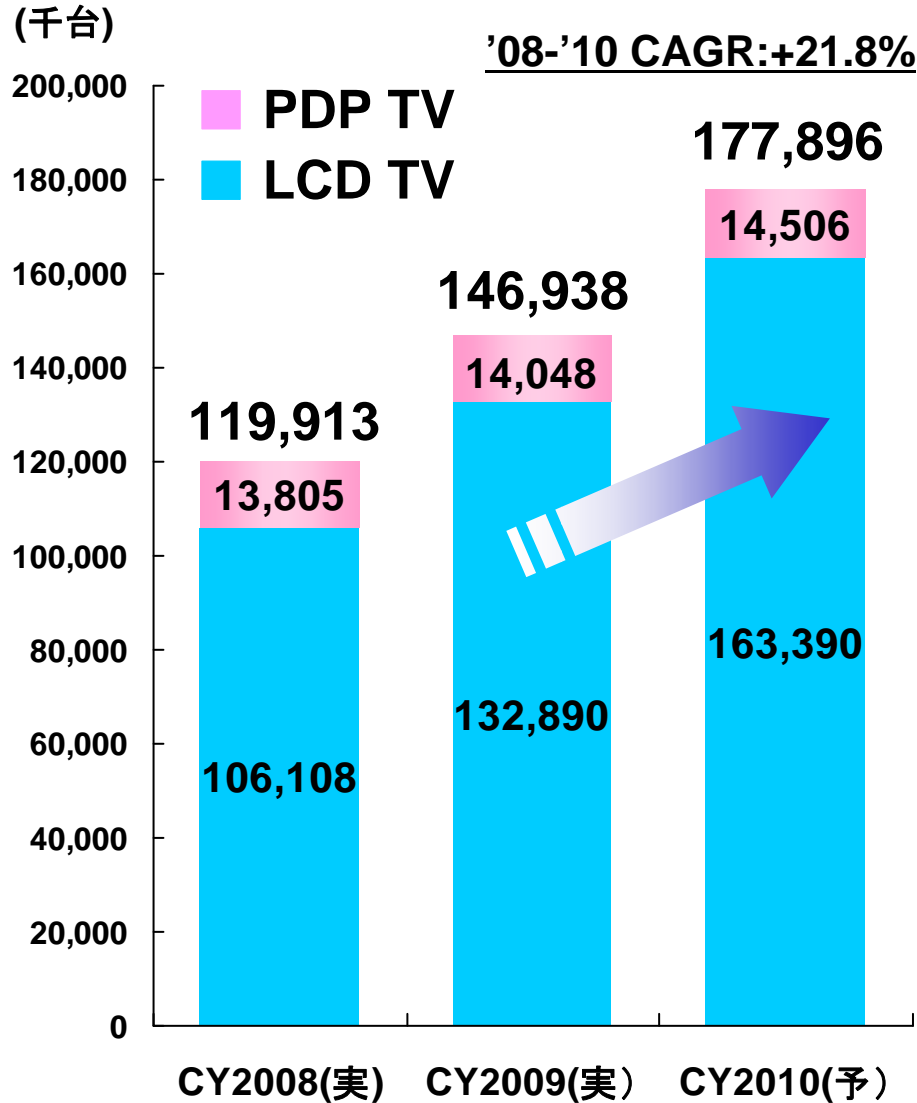




<主要市場の動向-1>

Flat Panel TV (LCD and PDP TVs)

<W/W生産台数>



出所: JEITA

<SMKの対応>

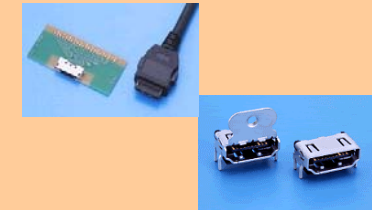
- **リモコンの更なる売上拡大**
ボリュウムゾーン向けモデルにおけるシェア拡大

RF(無線)リモコンビジネス拡大

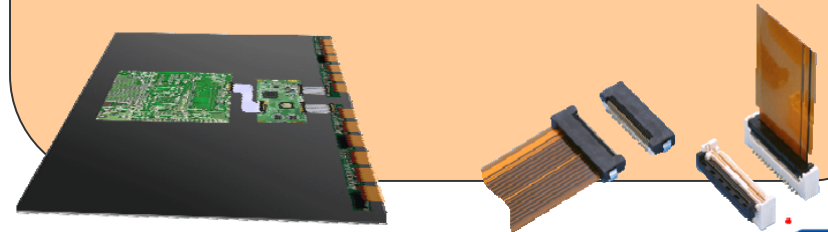


- **市場ニーズ対応製品の提案拡販**

インタフェースコネクタのラインナップ拡充



シールドFPC対応コネクタの販促強化



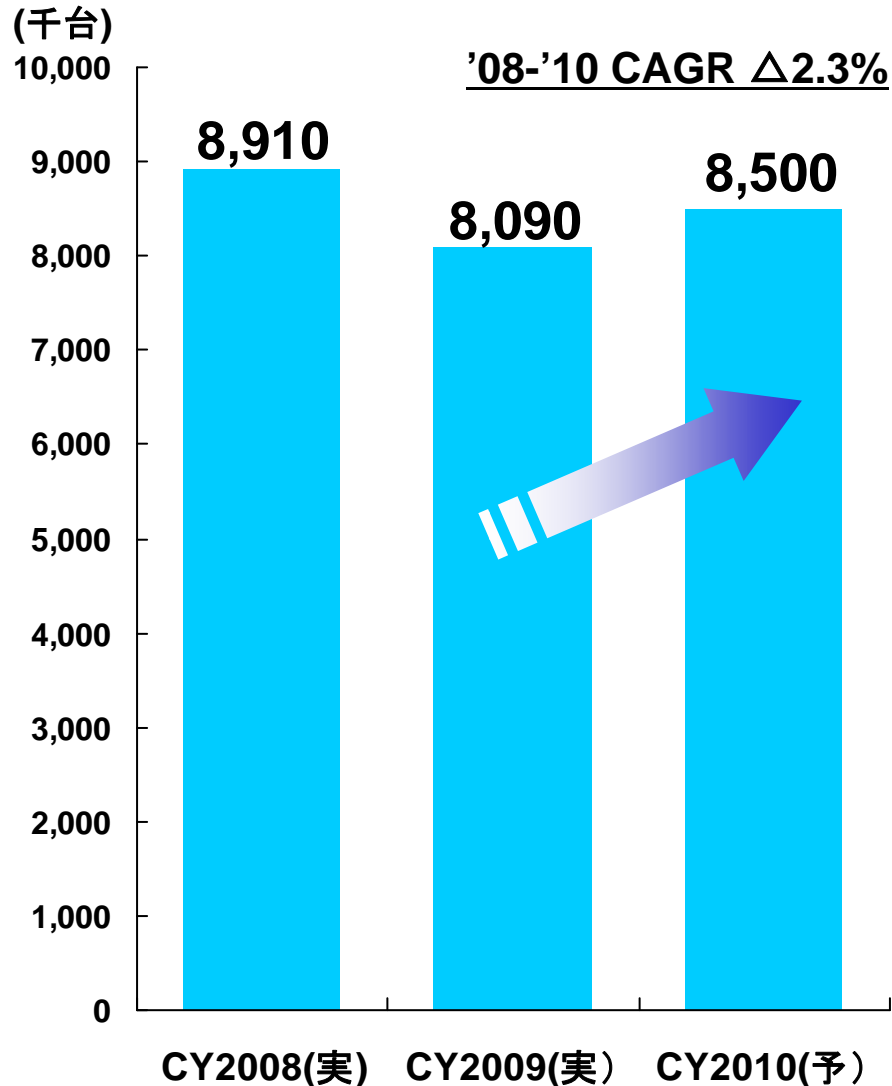


<主要市場の動向-2>

Car Navigation Systems

20/31

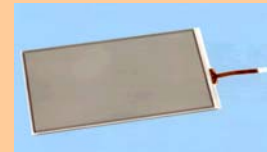
<W/W生産台数>



出所: JEITA

<SMKの対応>

- 純正カーナビ搭載率増加に対するタッチパネルビジネスの拡大



- 市場ニーズ対応製品の集中拡販
車載カメラモジュール、地デジ関連
コネクタ、車載アンテナ同軸コネクタ
の拡販強化



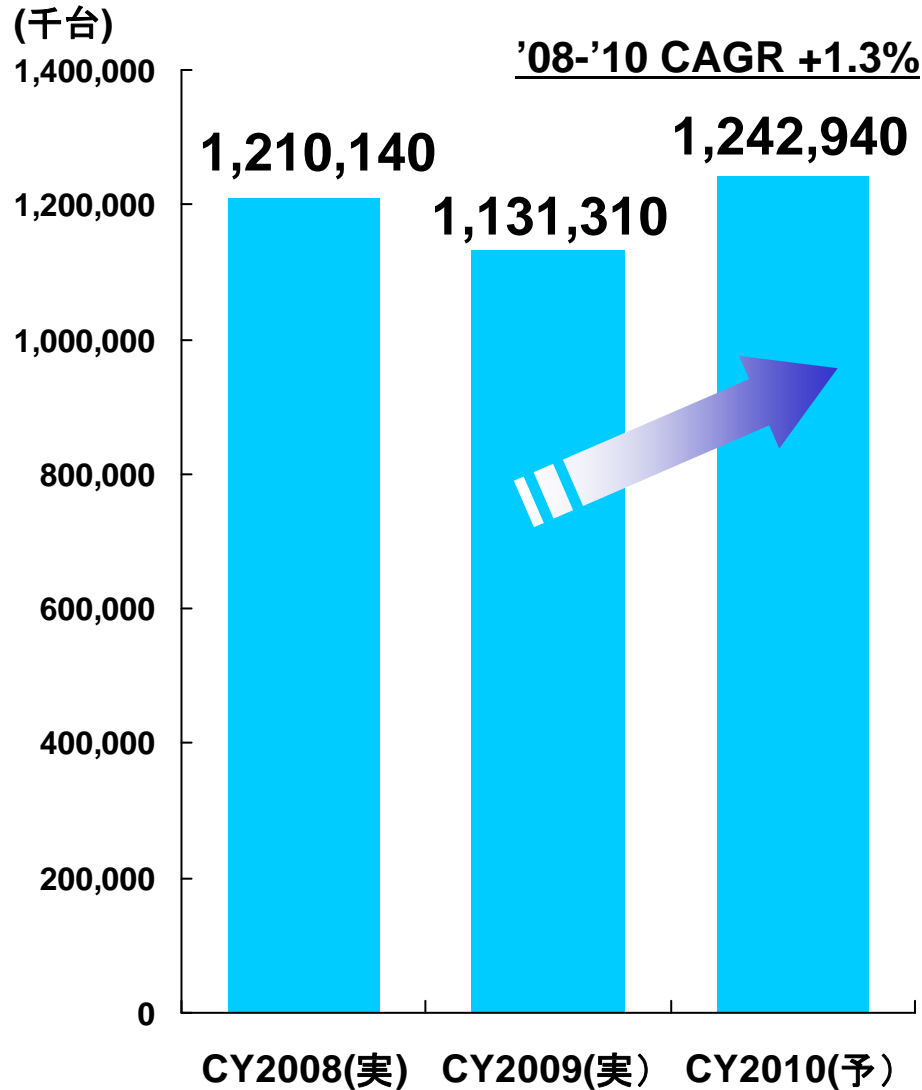
- 新規ビジネス拡大の為の活動強化
海外OEMメーカー(自動車メーカー向
け)の攻略と電気自動車に対するアプ
ローチ強化による商品開発の推進



<主要市場の動向-3>

Mobile Phones

<W/W生産台数>



出所: JEITA

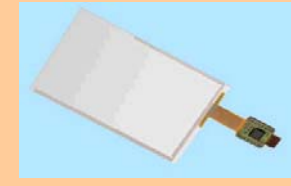
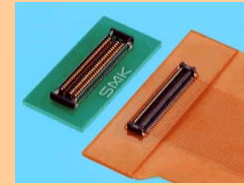
<SMKの対応>

- 売上拡大に向けたコスト競争力の向上

VA提案力の強化と開発スピードの向上

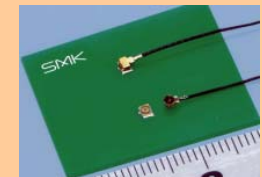
- スマートフォン向けを中心とした高い信頼性要求への対応

スイッチ、内部接続コネクタ、タッチパネル他、信頼性の高い製品の開発と提案



- 次世代無線通信市場に対する取り組み強化

アンテナ、高周波部品の新製品開発に注力

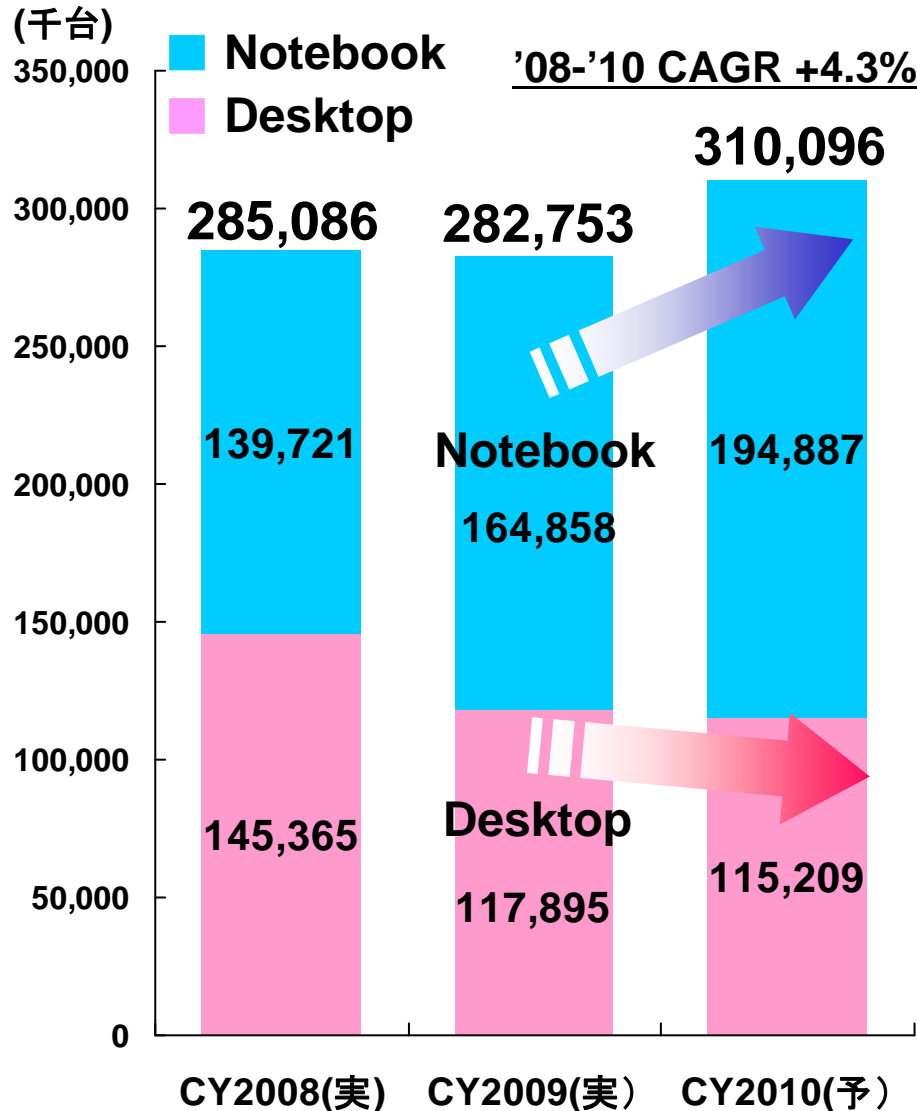




<主要市場の動向-4>

Personal Computer(Desktop & Notebook PCs)

<W/W生産台数>



出所: JEITA

<SMKの対応>

- Windows 7対応リモコン・タッチパネルの強化

海外大手メーカーに
対するアプローチ



- ノートパソコン、通信カード市場への高周波部品の拡販推進

モバイルWiMAX向けに同軸
コネクタとアンテナの複合化提案



- 高付加価値製品の開発促進

簡易脱着電源コネクタ、
新ホィンティングデバイス付
リモコン等

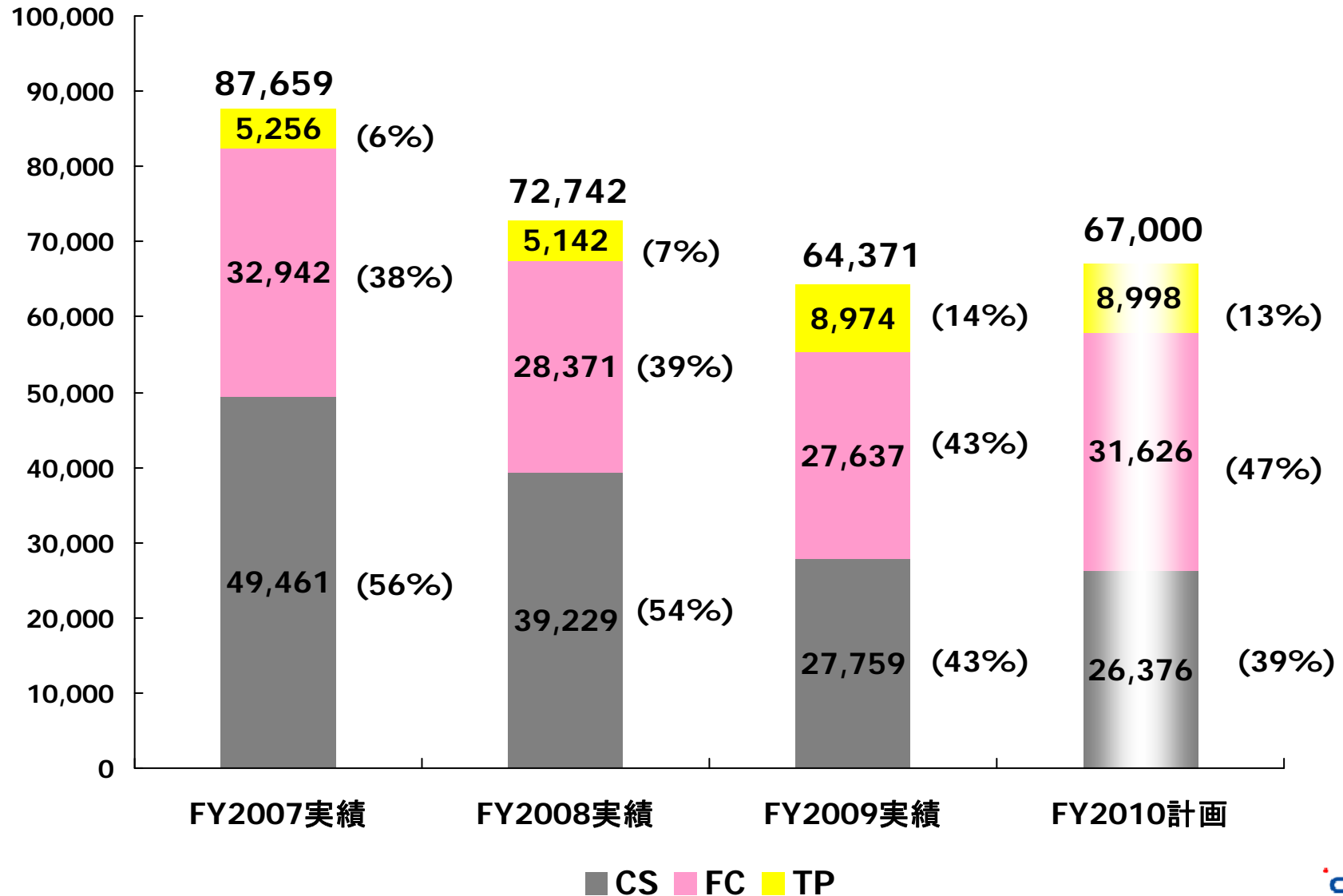




参考：＜連結＞事業部別売上高

売上高：百万円

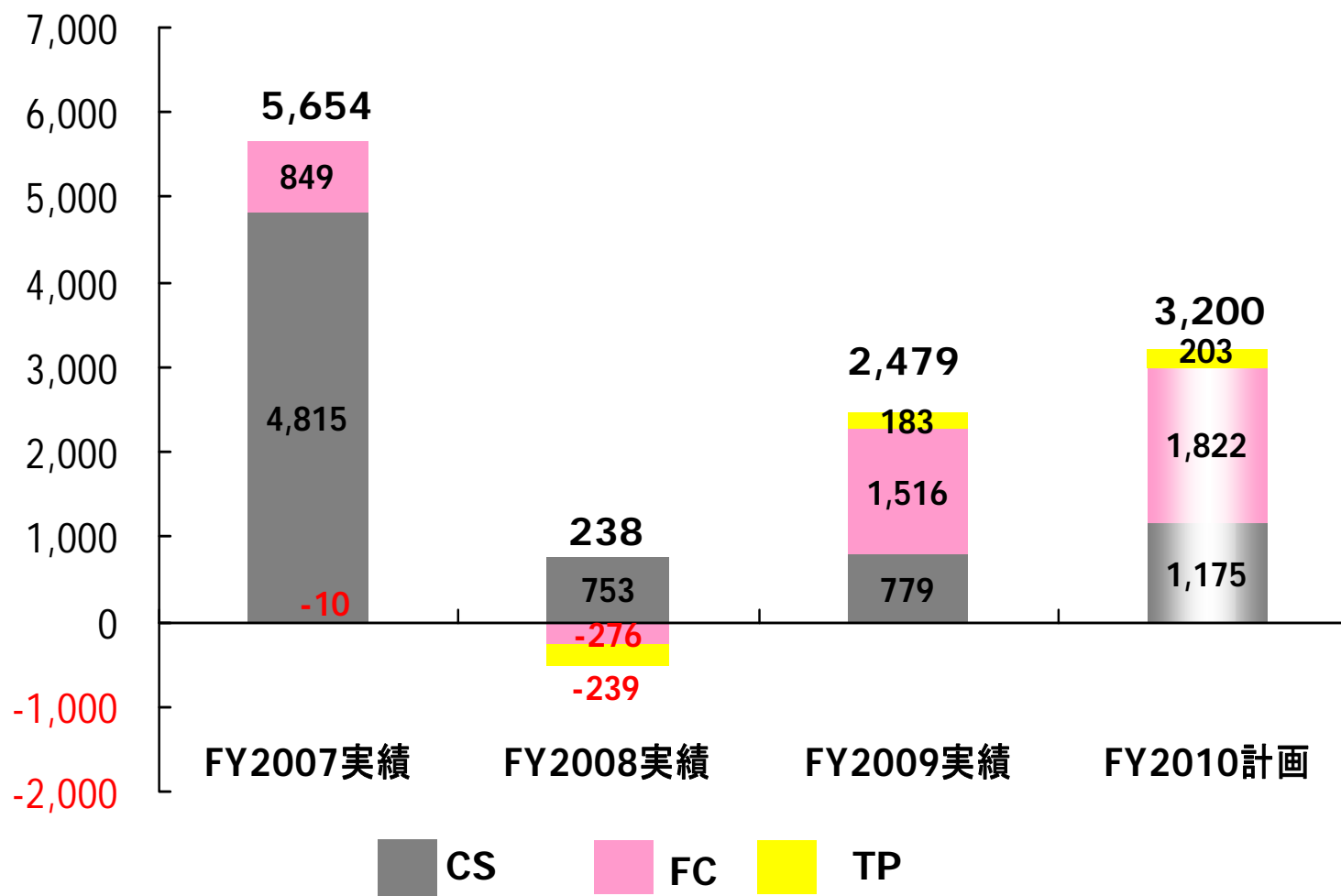
()：構成比





参考:<連結>事業部別 営業利益

利益:百万円





フィリピン工場の能力増強(タッチパネル)

25/31

増築面積 : 4,000m² × 2階建

完成予定 : 2010年10月

投資額 : 10億円

生産能力 : 1.5倍





役員の変動

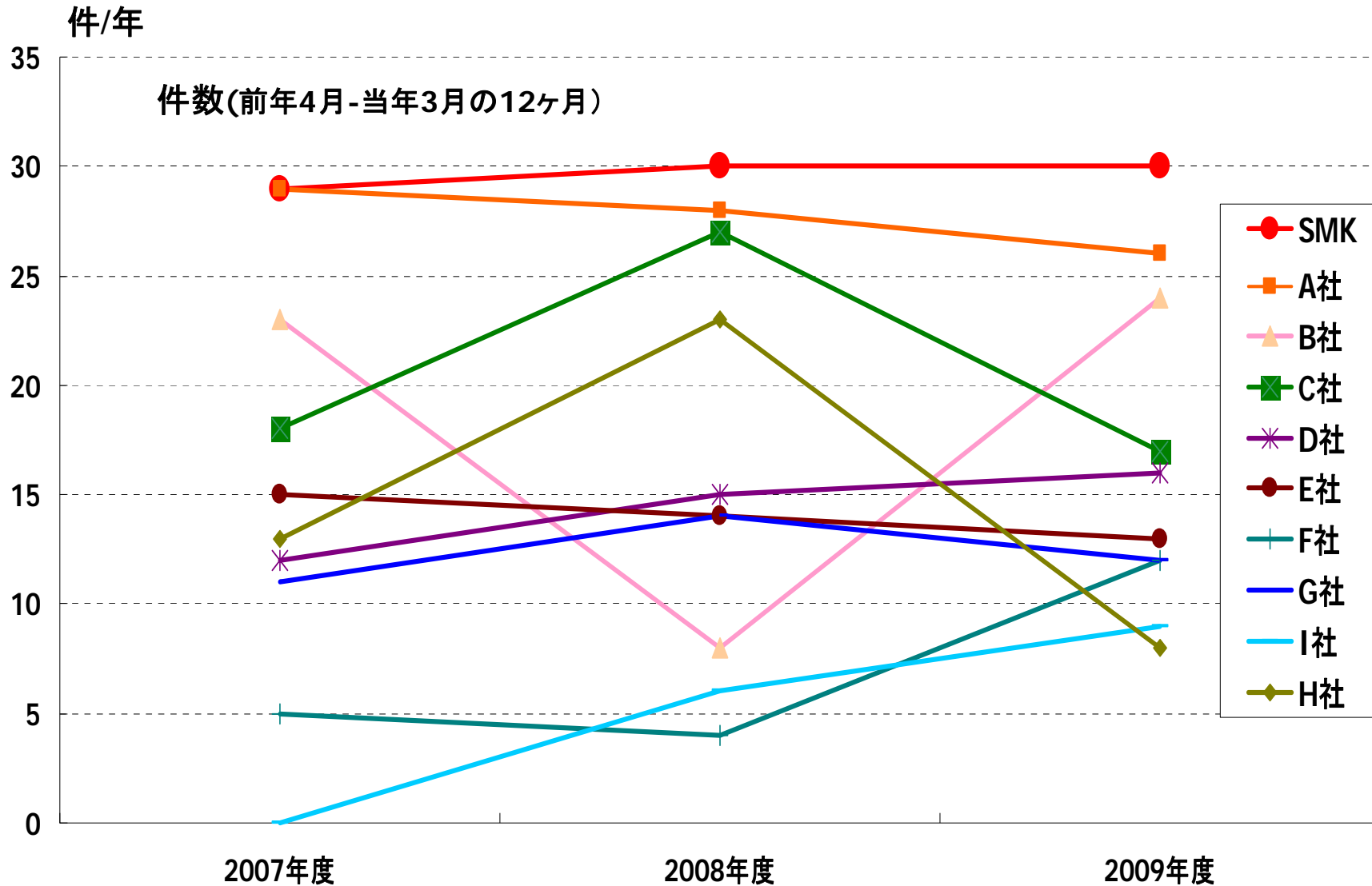
26/31

発令日:2010年6月24日付 (発表:2010年4月26日)

新	現	氏名
取締役 常務執行役員	常務執行役員	櫻井 慶雄
常務執行役員	執行役員	Paul Evans
執行役員	TP事業部長	柳 茂哉
執行役員	生産管理部長	石橋 竹己
執行役員	総務部長	大垣 幸平
顧問	取締役 専務執行役員	矢本 哲士
顧問	常務執行役員	入澤 誠



電子部品各社 新製品発表実績トップ10



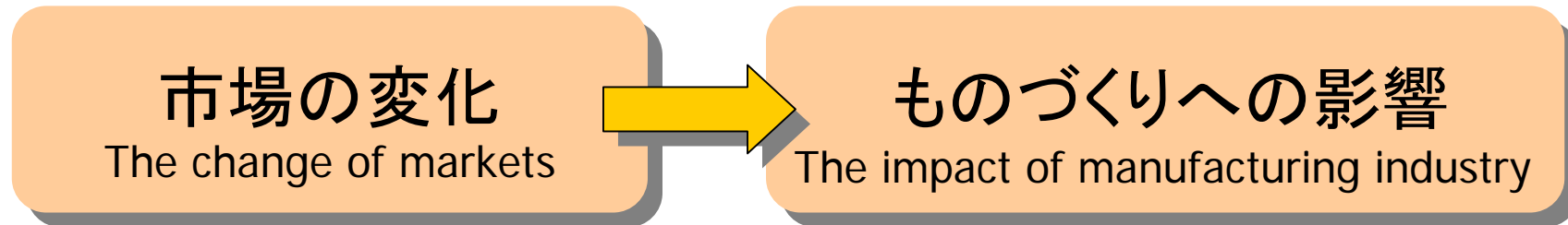
対象: 電波新聞2010年2月22日付「主要電子部品50社」掲載企業50社。

各社のホームページより新製品リリース件数をSMKにてカウントした結果の上位10社



パラダイムシフト Paradigm shift

28/31



過去
past

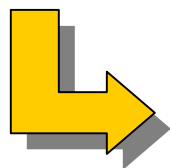
低価格 = 低品質
Lower price = Poor quality

現在
present

低価格 = 品質もそこそこ
Lower price = Acceptable quality

垂直統合型から水平分業型にシフト

From vertical integration to horizontal division of work



さらにまた垂直統合型の動き？

There is a move to introduce the vertical integration again?



基本姿勢： 適正利潤を伴った拡大路線

- 市場のパラダイムシフトに対応できる体制への見直し
- ものづくりの基本重視と製造要素技術の社内蓄積
- マーケティング再構築による戦略商品企画と拡販
- 高付加価値製品生産の為の戦略的投資の実施
- 欧州ビジネスの再構築と新興国ビジネスの強化
- 環境・エネルギー・健康市場でのビジネス開拓
- 環境経営への取り組み強化による競争力の向上
- SMKリスクマネジメントの推進-コンプライアンス、営業秘密、BCM強化



- 成長を継続する価値創造企業への変革



「価値向上」と「新たな挑戦」
"Value Improvement" and "New Challenges"

"We have to change to remain the same."

創って造って作りこむ & 売って売って売りまくる



この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別の事情の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。